報 告

日本神経回路学会第30回全国大会（JNNS2020）運営報告

堀 尾 喜 彦

東北大学電気通信研究所*

Yoshihiko Horio

Research Institute of Electrical Communication, Tohoku University*

2020年12月2日から5日の4日間にかけて、日本神経回路学会第30回全国大会が、東北大学研究推進・支援機構知の創出センター、東北大学 電気通信研究所、東北大学 科学・技術と心豊かな社会研究センターとの共催で行われました。当初は、8月9日から12日まで、仙台市の東北大学川内キャンパスおよび片平キャンパスにおいて開催を予定しておりましたが、COVID-19の感染拡大のため開催期日を12月2日から5日へと変更しました。その後、一旦は感染拡大が落ち着いたかに見えましたが、感染が再燃してしまい、開催形態

を完全オンラインとせざるを得ない状況になりました。日本神経回路学会全国大会としては初の完全オンライン開催となり、参加者数の激減が予想されましたが、学会員の皆様の研究に対する熱い情熱のおかげで、ふたを開けてみれば参加登録者総数187名（正会員71名、学生会員49名、非会員12名、学生非会員17名、その他38名）と、これは全く杞憂に終わりました。開催方法についても従来とは大きく異なり、招待講演、特別セッションおよび一般論文の口頭発表はZoomを用いたライブ配信によりリアルタイムで実施しました。一

基調講演の様子。左上から時計回りで、虫明先生、太田先生、北澤先生、佐倉先生。

* 〒 980-8577 宮城県仙台市青葉区片平 2 丁目 1-1

サテライトシンポジウム (9th BFBC) の様子

方、ポスター発表はオンデマンドの音声付きスライドを事前に公開し、大会期間中にチャットでの質疑応答を行いました。このように従来とは異なる形式での大会となりましたが、皆様には非常に活発なご議論をいただきました。

12月2日から4日の本会での基調講演としては、東北大学大学院医学系研究科の虫明 元先生に「前頭葉における行動制御」と題したご講演を、東京大学大学院工学系研究科の太田 順先生に「身体性システム科学と超適応の科学」と題したご講演を、東京大学大学院情報学環の佐倉 統先生に「科学技術とは誰のもの？—歴史を振り返って考える」と題したご講演を、さらには、大阪大学生命機能研究科の北澤 茂先生には「「今」と「ここ」は脳のどこにあるのか」と題したご講演を頂きました。幅広い分野にまたがる大変面白いご講演の連続で、いずれもすばらしい内容であり聴講者からの質問も多数ありました。また、大会3日目には、特別セッションとして「脳型ハードウェア」セッションを開催し、脳型ハードウェアの最新の話題について6件の発表がありました。この他、一般論文として採択された件数は、口頭発表13件、ポスター発表53件でした。また、大会3日目の午後には総会に引き続き表彰式が開催されました。

大会4日目の12月5日には、サテライトシンポジウムとしてThe 9th RIEC International Symposium on Brain Functions and Brain Computer (9th BFBC)を開催しました。9th BFBCでは、国外からの参加者も含め12件の口頭発表と12件のポスター発表がありました。さらに、9th BFBCの特別セッションとして、東京エレクトロン株式会社協賛の下The 2nd International Symposium on Designing Human-Centric IoT Societyを開催し、本学会会長の阪口 豊先生のご講演をはじめ、4件の刺激的な招待講演がありました。なお、これらのサテライトシンポジウムは全て英語で行いました。

初めての完全オンライン開催でしたが、終了後のアンケート調査の結果では、オンライン開催全般について、「大変良かった」と回答の方が32%、「良かった」が56%、「普通」が6%、「良くなかった」が6%となっており、今回のリモート開催はおおむね満足いただけたのではないかと考えています。一方、やはり対面の方が議論しやすいとか、事前公開したオンデマンド動画の事前視聴率が50%以下など、改善すべき課題もまだまだあります。しかし、何度でも動画が見られる、事前に内容を確認できる、移動時間が無い、自由な時間に参加できる、より多くのポスターを閲覧できるな

リモート表彰式の様子

ど、オンライン開催ならではの利点も多数指摘されています。今後はこの経験を活かし、対面での大会の開催が可能となった後でも、オンライン開催の良い所を盛り

込んで、より良い大会にしていいただければ幸いです。

最後に、本全国大会の運営にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。